

教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー)

※学科のディプロマポリシーを記載

自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。
	DP2	情報の活用	目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。
	DP6	課題解決力	困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。
信じられる力	DP7	自己効力感	知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を發揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。

◎: 科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%)    ○: 科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%)    △: 科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)

	授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
人間力育成科目	◆ きびこく学	1	1	春	順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	
	◆ SDGs概論	1	1	春	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何が出来るか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。	△	○	◎		◎	◎		
	◆ グローバルスタディーズ入門	2	1	春または秋	社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的なイシューを題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。	○		◎		◎	◎		
	◆ 課題解決演習	2	1	秋	これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。		△	△	○	○	◎	◎	
キャリア教育科目	◆ キャリアデザインⅠ	2	1	春	この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。			◎	○		△	◎	
	◆ キャリアデザインⅡ	1	2	春	自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の入力、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。		△	◎	○		△	◎	
	◆ キャリア実践Ⅰ	1	3	春	社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動で必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面での自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。		○	○	○		○	◎	
	キャリア実践Ⅱ	1	3	春	「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。		○	○	○		○	◎	

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
数理・情報活用科目	◆ 情報活用	2	1	春	高校までに習得したコンピューターリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる基本的なコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。	○	◎	△					
	数理・データサイエンス・AI基礎	2	1	秋	今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI活用)」「基礎(データリテラシー)」「心得(データ・AI活用における留意事項)」で構成される。	○	◎	△			○		
	数理・データサイエンス・AI応用	2	2	春	今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で構成される。数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。	○	◎	△			○		
外国語	◆ 英語基礎 I	2	1	春	高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。「アクティブ英語 I」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
	◆ 英語基礎 II	2	1	秋	「英語基礎 I」に引き続き、高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。「アクティブ英語 II」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
	◆ アクティブ英語 I	2	1	春	ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎 I」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
	アクティブ英語 II	2	1	秋	「アクティブ英語 I」に引き続き、ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎 II」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
	レベルアップ英語 I	2	2	春	海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
	レベルアップ英語 II	2	2	秋	「レベルアップ英語 I」に引き続き、海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
	中国語と中国文化 I	2	1	春	中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	中国語と中国文化 II	2	1	秋	「中国語 I」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
言語教育科目	フランス語とフランス文化 I	2	1	春	フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	フランス語とフランス文化 II	2	1	秋	「フランス語 I」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	ドイツ語とドイツ文化 I	2	1	春	ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	ドイツ語とドイツ文化 II	2	1	秋	「ドイツ語 I」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	◇ 日本語 I A(文法)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I A(読解)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I A(聴解)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I B(文法)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
日本語(留学生専用科目)	◇ 日本語 I B(読解)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I B(聴解)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語 II A(文法)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
	* 日本語ⅡA(読解)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
	* 日本語ⅡA(聴解)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
	* 日本語ⅡB(文法)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
	* 日本語ⅡB(読解)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
	* 日本語ⅡB(聴解)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
社会の理解	日本国憲法	2	1	春または秋	日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎		◎	○			
	経済学	2	1	春または秋	私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え方、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。	◎		◎				
	社会学	2	1	春または秋	社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。	◎	△	◎	△	△		
人間形成	哲学	2	1	春または秋	哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。	◎		◎	△			
	心理学	2	1	春または秋	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。	◎		◎	△			△
	多様性の理解	2	1	春または秋	異文化をはじめ、人種や宗教、性別やLGBTなど、現代社会における多様性について、それぞれの現状と課題を理解し、ダイバーシティ実現のために何が必要か、また自らが何かできるかを考え、積極的に行動しようとする態度を育成する。(人権教育を含む)				◎	◎		

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
基礎教育科目	文章力の基礎	2	1	春 または 秋	大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。	◎		◎	○			
	生涯スポーツ論	2	1	春 または 秋	少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通じたスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。	◎		○	○			
	生涯スポーツ実習	1	1	春 または 秋	様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。	△			◎			
自然科学	数的理解	2	1	春 または 秋	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。	◎	◎	◎			△	
	化学	2	1	春 または 秋	基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。	◎		◎				
	生物学	2	1	春 または 秋	生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。	◎		◎		△		
	環境科学	2	1	春 または 秋	現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見的な問題意識をもって対応することが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。	◎		○		△	△	

◎	34	4	38	18	12	4	6
○	3	2	2	7	1	0	0
△	2	16	4	4	3	4	1
合計	39	22	44	29	16	8	7

学部名	農学部	学科名	醸造学科	2022年度 カリキュラムマップ
-----	-----	-----	------	------------------

醸造学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

※学科のディプロマポリシーを記載		
自ら学ぶ力	DP1 知識・技能	農業・食品関連産業に関する基本的事項の知識と理解力を身につけている。食品科学分野全般についての知識と理解力を身につけている。日本及び諸外国において培われてきた酒精酵母、乳酸菌、麹カビなどを用いた多種多様な醸造・発酵に関する知識と技術を身につけている。
	DP2 情報の活用	食品科学分野における多種多様、膨大な情報から正確な情報を取捨選択するリテラシー、および得られた情報を自らのテーマに有効活用できる力を身につけている。
	DP3 主体的な学びと論理的な思考	醸造・発酵に関する知識・技術を主体に自ら学び、それを新たな醸造関連食品の創出や食文化への応用などに展開できる論理的な思考力、創造力を身につけている。
生きぬく力	DP4 コミュニケーション・表現力	食品の開発・創出において、他者の多様な意見を尊重する寛容性と、根拠を示しながら自らの主張を表現する能力を身につけている。
	DP5 グローバルな視野と地域貢献活動	世界の多様な食文化や食糧事情の背景にある歴史、文化、宗教、地勢などの理解を深めることを通じて、日本や地域の特性を理解し、まず地域社会から何ができるのか、何を為すべきかを考え積極的に活動できる。
	DP6 課題解決力	失敗を怖がらずに試行錯誤するためのスキルを身につけ、失敗の経験と知識を活かして「知恵」を自分のものとし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。
信じられる能力	DP7 自己効力感	常に知的好奇心を持ち、自ら学び、提案や実践する姿勢を身につけ、失敗の中にも次への可能性を見出す粘り強さを身につけている。
	DP8 SDGsの達成を目指して	環境保護、貧困からの脱却などSDGsの掲げる達成目標を理解し、農業、発酵・食品加工の分野でどのような貢献ができるのかを考え、行動する。

◎: 科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%)    ○: 科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%)    △: 科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)

専門基	授業科目	◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
	◆ 醸造学概論		2	1	春	我が国は微生物が繁殖する上で最適な自然環境を持っている。微生物は腐敗の原因となるが、利用すれば醗酵という好ましい状態で醸造食品を生産することが出来る。我が国においては古来から多様な醸造食品があり、現在では医薬品の生産技術を開発するまで発展している。本講義においては醸造大国である我が国の技術についての理解を深める。	◎	△						○
	◆ 基礎演習Ⅰ		1	1	春	「大学で学ぶための基礎」をテーマとして、文書作成や図表理解の能力を学び、大学で自ら学ぶための方法を身につけることを到達目標とする。			○	◎			△	
	◆ 基礎演習Ⅱ		1	1	秋	「自己理解と自己実現」をテーマとして、思考力・表現力・検討能力などの向上、文献検索法、レポート作成法などの基礎を学習することで、学問へのアプローチ方法を身につけることを到達目標とする。			○	◎			△	
	◆ 基礎演習Ⅲ		1	2	春	「課題探求能力・主体的判断能力の育成」をテーマとして、自主的学修のための基礎知識を身につけ、自らが課題を見つけることを到達目標とする。			○	◎			△	
	◆ 基礎演習Ⅳ		1	2	秋	「知識に対する自己自身の姿勢を社会との関連の中で理解する」をテーマとして、討論やグループワークを中心とした演習を行い、学科の専門性を理解する能力を身に付けることを到達目標とする。			○	◎			△	
	◆ 南あわじ農業学		2	1	春	全国有数の農業生産地である南あわじ地域の農業の現状や発展経緯、たまねぎやレタスなどの生産技術、また関係機関や関係業者の取り組みや支援体制などを知り、地域全体での産地づくりについて理解する。またこれにより、南あわじ地域の今後の農業生産、流通、加工および農村地域の活性化などについて提言できるようになる。		○			◎	△		
	遺伝学		2	1	春	生物の複雑な生理現象の大半が遺伝的支配を受けていることを認識・理解するとともに、遺伝学の基礎を習得する。	◎	○				△		
	分子生物学		2	2	春	1) 遺伝子とは何かを理解できる。 2) DNA、RNA、タンパク質の構造が理解できる。 3) DNAの複製・修復機構の概要を理解できる。 4) DNAに保存されている遺伝情報がどのように発現されるか(RNAの転写、タンパク質の翻訳)を理解できる。 5) 卒業論文研究等で分子生物学的実験を実践できる基礎的学力を習得する。	◎	○				△		
	ゲノム情報学		2	1	秋	ゲノム情報を利用する基礎科学及び応用研究に関する具体的な事例を学びゲノム科学の重要性と面白さを理解する。授業においてゲノム中に莫大な数で存在する物の多様性と進化に重要な役割を持つトランスポゾンについての詳述を行う。	◎	○	△					

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
基 科 目	植物生理学	2	1	春	低肥料・低農薬投入型農業に関する問題点を掘り起こし、これらを解決するための方法について提案・解説を通して、これらの研究の現状と発展の可能性、さらに、それらを統括した世界的規模での低肥料・低農薬投入型農業の実現の可能性について考察する。	◎	○	△						
	生物の進化と多様性	2	1	春	地球と生命の誕生、多様な生物の進化および地球生命共同体を形成する生物種について理解し、持続可能な地球生命体の維持における食料資源と環境保全資源としての植物の重要性を認識する。	◎		△					○	
	農業技術政策論	2	1	春	戦中・戦後の主要な農業政策について学ぶ。また、日本および世界の農業・食料需給の現状と未来について学ぶ。さらに、農業の多面的機能、農業による医薬品の生産といった農業の新たな役割とそれらの効果あるいは可能性について学ぶ。履修によって、日本の農業、農業生産および食料安全保障のあり方、それらのための農業政策のあり方についての確かな判断ができるようにする。	◎				△	○			
	現代農業論	2	1	秋	経済発展や農産物貿易の自由化に伴い日本農業がどのように変容し、食糧自給率が低下してきたかを整理する。次いでグローバル化の下でさらに進展する農産物貿易自由化と日本農業の構造改革とこれまでの成果、食糧安全保障政策についての理解を深める。	◎		△		○				
	生物化学	2	2	春	生物を構成している生体分子の構造と機能について理解を深め、生体内での役割を総合的に理解する。	◎		○					△	
	有機化学	2	2	秋	有機化学の基礎知識取得により、生物や生命現象を分子レベルで理解できることを目標とする。	◎		○					△	
	◆ 食の安全学	2	1	春	食べ物の安全性を脅かす要因とその予防法について学習し、食の安全性確保に対する強い責務を自覚することを目標とする。	◎	△						○	
	生物学実験	1	2	秋	実験を通じて、生き物や生命現象に対する興味や関心を高める。卒業論文研究等の生物学実験を実践する際に必要な一般知識や基礎技術を習得する。	△		◎				○		
	◆ 化学実験	1	2	秋	食品を構成している成分糖質、脂質、タンパク質、ミネラル、食物繊維、水分の分析定量方法を身に付けることで、食品はヒトが食べるものであることを科学的に理解することを目標とする。	△		◎				○		
◆ 植物育種学概論	◆ 植物育種学概論	2	2	春	人間社会における育種(品種改良)の重要性について画期的成果を踏まえつつ、育種の基礎となる遺伝資源の収集・保存、変異の創成法や選抜法、およびこれらを支える基礎研究について理解する。	◎	○						△	
	栽培学	2	1	春	各種作物諸器官の外部形態・内部構造・生理学的特性について学ぶ。また、各種作物の土壌・水・光・ガス・温度等といった環境に対する反応特性について学ぶ。さらに、機械化技術を含めて、既存の主要な栽培技術について学ぶ。履修によって、作物の収量と品質を最大化できるような、播種・育苗から収穫調製に至るまでの栽培技術を構築するための基礎知識が習得できるようにする。	◎				○	△			
	野菜園芸学	2	2	秋	種々の野菜の特性を理解し、特性に基づいた栽培体系を学ぶ。また、生産および消費動向を踏まえた資源としての基礎理論を習得する。	◎				○	△			

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
花卉園芸学	2	2	春	自生地は熱帯から寒帯まで、生育状況も多様であるため、その性質に応じた栽培法や利用についての知識や技術が要求されるため、花卉の種類、栽培、利用・植栽について理解する。	◎	○			△			
◆ 植物病理学	2	2	春	樹木を含む食物の病気とそれを引き起こす各種病原体、特に植物病の主たる原因となる糸状菌について理解する。	◎	○			△			
総合防除管理学	2	3	秋	環境低負荷型の防除法を追求するため、病害、虫害および雑草害に対する防除効果を持つあらゆる方法を駆使して、「経済損失を被らない程度に被害を抑制する」という総合防除管理の考え方とその意義について理解する。	◎	○			△			
植物細胞生理学	2	2	秋	植物とその細胞の構造と機能、成長様式、物質代謝、遺伝現象などについて学習し、食料および機能性物質の生産と地球環境の保全を担う植物があらゆる生命を支える根源的役割を果たしていることを理解することを目標とする。	◎	○			△			
施設栽培・植物工場論	2	3	春	野菜、花卉、果樹などの作物栽培分野における先端栽培技術である養液栽培や養液土耕栽培、並びに食物工場の理論と実際について理解する。	◎	○			△			
応用昆虫学	2	2	秋	農作物の生産にとって、害虫の制御と益虫の有効利用が重大な課題であることを理解する。	◎	○						△
雑草学	1	3	春	水稲、畑作物、果樹、野菜、花卉・花木、工芸作物、飼料作物、林地、芝生、水生雑草についての管理法について理解する。	◎				○			△
農薬学	2	3	秋	総合科学としての農薬学をテーマに、農薬について科学的理解を深めることを目標とする。	◎	○						△
農業気象学	2	3	秋	物理法則に基づいてエネルギー収支と水・大気の循環から地球規模の気候システムを理解した上で、局所的さらに温室レベルの気象環境について基礎知識を修得する。	◎		○			△		
家畜とその飼養管理	2	2	春	わが国の畜産を支える家畜の歴史と生産体系ならびにその栄養生理学的特性を理解する。	◎	○						△
家畜の育種と繁殖	2	2	秋	家畜動物の育種に係わる、野生動物の家畜化、家畜化による動物形質の変化、家畜改良の歴史、家畜の種と品種の分類、家畜育種の方法などの理解を目指す。	◎	○						△
家畜の構造と病気	2	3	春	動物の構造や機能的特徴を理解するとともに、動物の疾病における原因、病気の成立、形態的变化や機能障害並びに感染症における病原体、発病機構及び疫学について理解する。	◎	○						△

農業系科目

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
家畜とバイオテクノロジー	2	3	秋	家畜の生産に関わる基礎的知識とそれらを発展させた新しい応用技術との関連を理解するとともに、新しい技術の利点にとらわれることなく、問題を冷静に見極める能力を培うとともに、利益主導型の思考にとらわれずに、食の「安全」、「安心」や「生命倫理」について考える習慣を養う。	◎		○					△
生物統計学	2	3	春	研究計画や結果の評価にあたり、統計学は重要な役割を持つ。演習を通じて、データの要約、検定手法を習得し、統計学の基本的な考え方について理解することを目標とする。	◎	○					△	
フィールド実習 I	1	1	春	イネ、ダイズ、主要葉菜類、主要果菜類の栽培技術の基本を習得し、人間社会における農業の重要性を学ぶ。畜産農家の見学を通して畜産動物の飼養・管理を学ぶ。			◎			○		△
フィールド実習 II	1	1	秋	栽培管理技術の修得に加え、作物の生産過程における水、無機養分、エネルギーの動態を理解し、よりよい栽培技術の開発に向けた知識と技術を身につける。			◎			○		△
◆ 醸造分析化学	2	3	秋	醸造/醗酵とは、原料となる食品に微生物を作用させ、成分を分解、種々の物質に変換する技術である。本講義においては、醸造・醗酵を通じて生産された食品の品質を特徴付ける分析項目、及び製造における品質管理に必要な分析項目を整理し、目的分析方法などを解説する。	◎	○					△	
醸造酵素化学	2	3	春	酵素とは我々が生命活動を行う上で必須のタンパク質である。本講義では酵素のタンパク質としての構造や性質、さらには生体触媒としての基質特異性、反応機構などの化学的性質について解説し種々醸造過程における各酵素の役割について学ぶ。さらにバイオテクノロジー分野における酵素の利用・改変技術、実用例を紹介し酵素が様々な分野に応用されていることへの理解を深める。	◎	○	△					
醸造機能食品学	2	2	春	本講義では味覚機能や栄養機能が増す醸造法について学ぶ。酢、味噌、納豆を例にその醸造手法と現場での工程及び管理の要点を具体的に知ることで醸造技術の実践と応用を理解することを目標とする。	◎		○				△	
◆ 醸造管理学	2	3	春	全ての醸造物は、微生物もしくは酵素などの生物由来物質の働きによって生産されている。この工程を管理するとはどういう事なのか、どのようにすれば目的とする反応を進ませることが出来るのかについて具体例を交え講義を行う。とりわけ近年、法制化されたHACCPにおける醸造分野の位置づけについての理解を深める。	○	◎					△	
微生物学	2	2	春	微生物(細菌、真菌(カビ、酵母)、ウイルス)の個々の特性を理解し、違いを認識する。微生物の有用・有害両面を理解するとともに、食品の安全性確保のための基礎的知識と制御法を習得する。病原体の種類と性質を理解し、感染症の予防に役立てる。	◎	○	△					
醗酵微生物学	2	3	秋	醗酵技術に関わる主な微生物の種類、機能、生理などを理解する。	◎	○	△					
醸造微生物学	2	2	春	各種醸造発酵食品の製造に関わっている資源微生物の全貌を紹介し個々の生物学的特性と役割及び資源微生物としての有用株の探索・分離法について学ぶ。	◎	○	△					
微生物毒性学	2	3	春	細菌や真菌などの微生物は多種多様な天然化合物を作り出すが、本講義においては微生物が生産する様々な毒性物質を対象として、その毒性学を概説する。特に食の安全性に着目し作物栽培や食品加工過程における細菌毒素やカビ毒の汚染リスクやその対処法についても理解を深める。	◎	○					△	

醸造系科目

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
環境汚染物質分析学	2	3	秋	本講義においては、汚染物質の中でも環境の中でも残留性が高く生物濃縮を受けてヒトを含む生物に対する毒性が高いダイオキシンなどの残留性有機汚染物質の化学特性、生物に与える影響、食品成分との関りについて解説し理解を深める事を目的とする。	○	△						◎
日本酒学	2	3	秋	近年、世界的評価が高まっている日本酒について製造技術や食における位置づけの歴史的遷移を概観し日本酒の将来展望について考察していく。日本酒製造に代表される地域に根ざした伝統的産業には、これまで地域を支えてきた「何か」が存在する。地域創成のキーワードとなりうるこの「何か」を学生と共に考察していく。	○		◎		△			
ワイン学	2	3	秋	ワインは農産物である。醸造設備や醗酵管理に手を加えても原料のブドウの出来により品質が左右される。故にワイナリーはより良いブドウを栽培することに腐心してきた。これがテロワールであり教科書で学ぶことが出来ない。実際にワイナリーを訪れブドウ栽培から仕込み、醗酵管理から製成までの実習をとおして日本のテロワールの在り方を考察する。	○		◎		△			
乳酸菌醸造学	2	3	秋	ヨーグルト、チーズに代表される乳製品や漬物、なれ脂など発酵食品に用いられる乳酸菌について、その種類と生理、醗酵過程における役割について解説すると共にその制御方法などについても学ぶ。さらに乳酸菌の生体内における役割、産業利用についての理解を深める。	○		◎		△			
◆ 醸造学実習	1	3	秋	調味料は、世界のそれぞれの地域で様々な発展を遂げてきた。そのため、その国の食を形作る基礎的な因子となっている。我が国に伝わる醬については、「味わい」、製法についても幅広くその流れは醤油、味噌に繋がり、食文化へも大きく影響を与えている。本実習においては、醬の小仕込みを通してこの歴史を追体験し、日本の食の歴史的広がりを体験的に学び世界の食における日本の醸造技術の位置づけを考察する。	○		◎			△		
◆ 栄養化学	2	2	秋	ヒトは食物を食べなければ生きていけない。日々の食物がヒトの健康と寿命を支配している。食物に含まれる糖質、脂質、タンパク質がどのようにしてヒトのからだのはたらきを調節しており、どのような食生活が健康を害するのかわ、生理学的に理解することを目標とする。	◎	○	△					
◆ 食品機能分析化学	2	3	春	食品は栄養素の他に、ヒトのからだの機能を健常に維持する成分を多様に含んでいる。ビタミン、ミネラル、食物繊維、ポリフェノール、カロテノイドなどである。これらは微量で、ヒトのからだのはたらきを健常に調節している。これを三次機能性というが、食品成分の健康維持に好ましい機能性を、科学的に分析する方法を理解することを本講義の目標とする。	◎	△	○					
機能性食品学	2	3	秋	本講義では、食品が有する栄養学的な三次機能に着目する。三次機能とは生体が本来有する健康を維持する力に対して働きうる機能であり上手く利用することで健康寿命の伸長にも役立つ可能性を秘めている。このような食品の機能性を理解する能力をつけ新たな食品開発において付加価値を与えられる力を身につけることを目指す。	◎	○			△			
食品化学	2	2	春	本講義では、食品とは何かを理解するために、食品中に含まれる主要成分の化学的特徴を理解し、食品成分に関する基礎知識を修得する。科学的な根拠に基づき栄養学的、生理学的な見地からも食生活を考えていく事が出来るようになるための礎を築く。	◎	○				△		
食品生化学	2	3	春	本講義では、ヒトが何故、糖質や脂質、タンパク質などの栄養素を摂取する必要があるのかについて生化学的視点から解説を行う。近年の研究において食事は何をどれ位食べるかに加えて食べる時間も重要な鍵となっていることが明らかになってきた。そこで、ヒトの身体の中で刻まれている様々な生命現象のリズムを学ぶことを通じて食べる時間と生体応答についても講述を行う。	◎		○			△		
醸造食品素材学	2	2	春	本講義では、食品素材の分類を学び、個々の食品素材についての特徴を理解する。特に酒類、味噌類の原料となる米、小麦、大麦といった穀類、大豆を含む豆類や果実酒の原料となるブドウ、梅、あんず、リンゴなどの果物に重点をおいた内容とし、食品学、食品機能学において学ぶ基礎となる幅広い知識の修得を目指す。	◎		○			△		
酵素工学	2	3	春	生体内の生物反応は化学反応であり酵素の生体触媒により制御されている。生物や生物機能を理解し様々な産業に利用するためには酵素の働きと特性を正しく理解しなければならない。本講義では酵素のタンパク質としての性質について述べ、酵素及び酵素反応の特異性についての概説を行う。さらに生体触媒の工学的利用方法についての解説も行う。	◎		○			△		

醸造系科目

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
食品遺伝子工学	2	3	春	現在、遺伝子組換え技術の発達により、農作物の成分を改変することが可能となっている。本講義では、食品の品質に関する農作物の成分について、構造、生合成、輸送機構などを含めて説明すると共にそれらの知見に基づいて作製されている遺伝子組換え作物に解説していく。さらに近年ゲノム編集等の新たな遺伝子改変技術を用いて作製されつつある農作物の開発の現状についても紹介していく。	◎	○				△		
食品加工化学	2	2	秋	食品を構成している成分が糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、食物繊維、その他の機能性非栄養素であることを学び、そのそれぞれがヒトの味覚などにはたらいていることを理解することで、消費者に美味しく、食べやすく、健康に好ましい食品を提供する方法を学ぶことを目標とする。	◎				○		△	
食品保蔵学	2	3	秋	収穫後の野菜・果実の保蔵と安全な食品としての取扱い方法の習得を目指す。	◎		○			△		
食品管理化学	2	3	春	食品は人が食べてその生命を維持するものである。したがって、食品製造に関わる者は、安全な食品を提供するという意味で、人の生命を預かっているという責務があることを理解することを目標とする。	○		◎		△			
食品衛生学	2	2	秋	食品の安全性を確保し、安全で安心な食生活を送るため、食品衛生行政と関連法規の内容を把握し、食中毒をはじめとする飲食に起因する健康障害に関する基本的知識を習得し、食品衛生上の諸問題に即応できる判断力と実践力を身につける。	◎		○			△		
農産物加工学	2	2	秋	農作物は直接食用にされるものだけでなく、加工されて流通するものが数多くある。これら農産物加工品となる原料植物の特性と栽培・加工・流通過程を知ることが目的とする。	◎		○			△		
食肉加工学	2	3	春	本講義では、家畜の筋肉が死後の熟成による種々の変化を経て食肉に変換された後、利用されることを理解する。また食肉の構造と化学成分の特性に応じて製造される肉製品に関する知識を習得することを目標とする。	◎	○	△					
乳製品加工学	2	2	秋	本講義では、乳の生産過程および乳を構成する化学成分について理解し、乳成分の特性に応じて製造される種々の乳製品に関する知識を習得することを目標とする。	◎		○			△		
水産物加工学	2	2	秋	本農学部が立地する淡路島は東、南、西にそれぞれ特徴的な漁場を有し様々な漁獲を行っており、これを加工する技術の蓄積を見ることが出来る。本講義においては、持続可能な水産業とそれを支える加工技術の現状について解説・考察を行う。	◎		○				△	
味と食感の科学	2	3	秋	旨味や苦味といった味は、食品の美味しさを決めるのに重要な要素であるが、五感の一つである触感(食感)も食品の美味しさを定義する際の重要な要素である。本講義においては、食材の硬さや粘性、弾力性を測定し数値化することで美味さと食感の関係を明らかにしていく。	○		◎		△			
食品安全の経済学	2	4	春	食品安全の経済学的分析にとどまらず、農場から食卓までの食品安全マネジメントの考え方や、「安全」と「安心」の違いなど、幅広い社会科学の側面から食品安全について考えることができるようになることを到達目標とする。	◎		○		△			
食農マーケティング論	2	3	春	地域創成のための食農マーケティングについて理解を深めるとともに、そのあり方を考察し、実践できる力を養うことができる。	○	◎						△

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
日本の食文化	2	3	秋	食文化を知るには、その背景を知ることが肝要である。自然、風土、歴史、文化など我が国固有の郷土性を重視してその歴史的な変遷を探ることにより現代の生活様式が見えてくる。日本食文化を学ぶことを通じて古来より日本人が大切にしてきた大和心「和敬静寂」の精神を知りグローバルな人材育成の一助となることが本講義の目的である。	△		○		◎			
日本の食文化実習	1	3	秋	自国の食文化をさらに深く知るための実践的トレーニングとして、人間の五感を活用した実習を行う。眼・耳・鼻・舌・心の五感を感化することを目的に食文化の背景にあるもの、神道(神饌)・仏道(精進)・茶道(懐石)・武士道(本膳)などの料理文化を鑑みながら現代に残る町衆の食文化(会席)とその時代に生まれた食文化を比較してその時代の社交性も交えた体験型の授業とする。	△		○		◎			
インターンシップ	2	2	春	社会人としての基礎知識を身につけるとともに、自分の進路について考え、大学生活を有意義に送るためにはどのようにすれば良いか、自分で考え行動できる能力を身につける。				△		○	◎	
食農コープ実習	2	3	春	教室で学んだ専門知識や技術が食と農の現場でどのように使われているか、どの様な役割を果たしているかを知る。			△			◎	○	
◆ 醸造学演習Ⅰ	2	3	春	研究テーマ設定を視野に入れ、専門領域における一般テキスト等を精読し、学術論文を読みこなすための予備知識を身につける。		○		△		◎		
◆ 醸造学演習Ⅱ	2	3	秋	醸造学演習Ⅰに引き続き、関心のある領域について、専門文献を収集し、内容を学術的に把握・考察できるようになる。		○		△		◎		
◆ 醸造学演習Ⅲ	2	4	春	「卒業研究の推進」をテーマとして、研究を遂行するとともに、卒業論文を書き上げるだけの基礎能力を身につける。		○		△		◎		
◆ 醸造学演習Ⅳ	2	4	秋	「卒業論文の作成」をテーマとして、自分自身で考え、研究を遂行し、卒業論文をまとめ上げる。		○		△		◎		
◆ 卒業研究	10	4	通年	醸造学演習Ⅲ・Ⅳと関連させながら、卒業論文のテーマに関連の深いレビュー研究、研究計画書作成、フィールドおよび社会調査、データの収集・解析などをおこない論文を完成させる。			○	△		◎		

専門応用科目